

福祉サービス第三者評価事業調査項目・【共通評価基準】 <自己評価結果 育精福祉センター 児童部門 令和5年度>

第三者評価共通評価基準 評価基本項目				共通評価基準 1/2				
評価対象	評価分類	NO	評価項目	全体評価結果			評価・課題・特記事項	
I 福祉サービスの基本方針と組織	I-1 理念・基本方針	1	①理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	A	B		理念や基本方針はいずれも適切に明文化されていて、職員室等に掲示され資料として配布されているが、知らない職員もいるため、説明をしていく。	
	I-2 経営状況の把握	2	①事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	A	B	C	経営状況については、的確に把握、分析され具体的な資料も作成されているが、そのことについて知らない職員もいるため、説明をしていく。	
		3	②経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	A	B	C	法人会議等にて、経営状況の把握や分析に基づき、具体的な取り組みが行われている。会議録も回覧されているが、知らない職員もいるため説明していく。	
	I-3 事業計画の策定	(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている	4	①中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	A	B	C	中・長期計画が策定され資料も配布されているが、一部の職員のみ理解しており、知らない職員もいるため、説明をしていく。
			5	②中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	A	B	C	一部の職員のみ理解していて、知らない職員もいるため、説明をしていく。
		(2) 計画が適切に策定されている	6	①事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが行われ、職員が理解している。	A	B	C	評価や見直しが組織的に行われていることは知っているが、細かな内容については知らない職員も多いため、説明していく。
			7	②事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	A	B	C	年齢等利用児の状況や特性に応じ、工夫しながら説明を行うが、理解に関して難しさを感じる。
	1-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取り組み	(1) 質の向上にむけた取組が組織的・計画的に行われている	8	①福祉サービスの質の向上にむけた取組が組織的に行われ、機能している。	A	B	C	行事や活動に対して、その都度会議等で振り返りを行い、検討や課題等に対して改善に取り組んでいる。今年度からサービスの質の向上、スキルアップを図るために、新たな自己評価に取り組む。
			9	②評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	A	B	C	各パートで話し合うことや会議等で課題について明確にし、改善に取り組んでいる。
	II 組織の運営管理	II-1 管理者の責任とリーダーシップ	10	①管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を促している。	A	B	C	会議や研修において、法令遵守、倫理について触れ、職員に資料を配布したり説明をしている。
11			②遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	A	B	C	必ず、職員に資料を配布したり説明をしている。防災訓練等、活動の最後には、福祉分野に限らず法令等についても説明をしている。	
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている		12	①福祉サービスの質の向上に意欲を持ち、その取組に指導力を発揮している	A	B	C	職員一人ひとりの福祉サービス質の向上のために、方向性や課題について説明し指導している。	
		13	②経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	A	B	C	課題をしっかりと分析しており、会議等で効果的な改善策や具体的な取り組みについて説明を行う等、指導力を発揮している。	
II-2 福祉人材の確保・育成	(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	①必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取り組みが実施されている。	A	B	C	人材確保に向けて、採用活動に取り組んでいるが必要数の募集が集まらない。	
		15	②総合的な人事管理が行われている。	A	B	C	法人会議等で、人事管理について話し合いが行われている。理解していない職員もいる。	
	(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	①職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	A	B	C	時短勤務や育児休暇の延長の実施等、働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
		(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている	17	①職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	A	B	C	ヒヤリングを行い、その中で、評価や振り返りを行っている。研修をしたり、課長やリーダーが中心となり、育成の指導を行っている。
			18	②職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	A	B	C	組織として、策定された新人教育や研修が実施されている。引き続き、基本方針や計画に基づき実施していく。
(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	19	③職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	A	B	C	スキルアップのため、必要に応じて外部研修への参加を勧めている。定期的に研修会を実施している。		
	20	①実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	A	B	C	受け入れの体制は整っている。コロナ等感染症の影響はあったが、調整し受け入れを実施した。		
II-3 運営の透明性	(1) 運営の透明性を確保するた	21	①運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	A	B	C	HPや機関紙等情報を開示している。	

	の確保	めの取組が行われている。	22	②公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	A	B	C	外部の専門家に確認をしてもらっているが、そのことについて知らない職員もいるため、説明が必要。	
<b>第三者評価共通評価基準 評価基本項目</b>									
評価対象	評価分類		NO	評価項目	全体評価結果			評価・課題・特記事項	
II 組織の運営管理	II-4 地域との交流、地域貢献	(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	①利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	A	B	C	相談員を軸に、地域社会とのつながりの大切さは説明してもらっている。コロナで、外に出る機会が限られてしまった為、交流はできなかった。	
			24	②ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	B	C	マニュアルはあり、ボランティア委員を中心に受け入れ体制は整っている。コロナ等の関係から状況に応じて対応した。	
			25	(2) 関係機関との連携が確保されている。	①福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	A	B	C	児童相談所等、関係機関と連携を図り対応するケースは多い。県のセーフティネットである為、困難事例を受け入れる機会は非常に多い。
			26	(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	①福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	A	B	C	地域で暮らしている方を対象に、2か月に一回相談会を行っている。またその後のフォローも行っている。知らない職員もいるため、説明を行っていく。
			27	②地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	A	B	C	地域で暮らす方を対象に、今年度はズームを用いて子供の発達等についての研修会を2回開催した。	
III 適切な福祉サービスの実施	III-1 利用者本位の福祉サービス	(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	①利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	A	B	C	権利擁護や虐待研修を実施している。また虐待防止委員会を設置し取り組みを行っている。	
			29	②利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	A	B	C	相談等、プライバシーに配慮し個別に話を聞く場を設けている。会議等を利用し個人情報やプライバシーに関して、職員に周知している。	
			30	(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	①利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	A	B	C	情報提供時には、パンフレットを用いて内容が分かりやすく伝わるよう工夫しながら説明をしている。
		31	②福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	A	B	C	具体例を用いて説明をする等、分かりやすく伝わるよう工夫しながら説明をしている。		
		32	③福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	A	B	C	サービス終了後も、利用者や家族が相談できるような関係作りに努め対応している。		
		33	(3) 利用者満足の上昇に努めている	①利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	A	B	C	利用者一人ひとり、満足度調査を実施し、結果に基づき支援に反映している。利用児会で意見を聞き、取り組みをしている。	
		34	(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている	①苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	A	B	C	苦情解決の体制は整備されている。挙げた苦情に対し、会議等で話し合い、適切な対処に努めている。内容について回覧し、職員に周知している。	
		35	②利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	A	B	C	悩み事等、周囲を気にせず話せるよう、個別の時間を設けている。また日頃から、話しやすい場の雰囲気作りに努めている。思春期等、難しい時期に差し掛かる方も多く、より環境への配慮が必要。		
		36	③利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	A	B	C	個別に話を聞くことや、定期的に利用児会を開催しその中で意見や要望を聞き、対応している。相談や要望等に対して、可能な限り迅速な対応を心掛けている。		
		37	(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	①安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	A	B	C	会議で再発防止に向けて、状況分析や情報共有の機会はしっかりと設けられている。また研修を行っている。理解度については課題がある。	
		38	②感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	A	B	C	感染症の研修を行っている。マニュアルがあり、適切な指導のもと対応が行われている。		
		39	③災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的にしている。	A	B	C	毎月防災訓練を実施している。また年に一回、緊急時に備え夜間参集訓練を行っている。食料や備品等の備蓄について、しっかり管理されているが、理解度については課題がある。		
		III-2 福祉サービスの	(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	①提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	A	B	C	重要事項説明書等、提供するサービスの内容については文章化されているが、理解度については課題がある。
41	②標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。			A	B	C	モニタリングを定期的に行い、状況に応じて検討、見直しを行っている。		
42	(2) 適切なアセスメントにより			①アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	A	B	C	アセスメントの手法が確立されている。個々のニーズに応じた個別支援計画を作成している。	

質の確保	福祉サービス実施計画が策定されている。	43	②定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	A	B	C	定期的に評価、見直しの場があり実施されている。
	(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	44	①利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	A	B	C	支援計画に基づきしっかり記録されている。情報共有もできているが、職員によって記述の書き方が異なるため、統一化が課題。
		45	②利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B	C	記録等の管理体制は、一人ひとり厳重に行われており、第三者に情報が漏れないよう管理が徹底されている。